
良い匂いがする猫

きぬ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

良い匂いがする猫

【コード】

N9801V

【作者名】

きぬ

【あらすじ】

中学生と猫と床屋さんのおじさんのほのほの話。

たぶん。

出会い

猫がいる。

野良かな？首輪してない。

でも、毛並みがとても綺麗で触りたくなる子だなあ。

猫に詳しくないから種類までは分からないがきつと日本猫だろう。
濃い茶色と黄色に近い茶色の縞模様。

さつきから私を攻撃的な目で睨んでいるくせに
歩道の真ん中でごろんとお腹を出して寝っ転がっている。

この辺は何故か野良猫が多い。

しかし毎日私は学校帰りにこの通りを歩いているが、
この猫を見つけたのは今日が初めてだった。

駅前の通りを少し奥にある美容室

・・・というより床屋と呼ぶほうがしっくりくる「fragran
t」の店内へと

その猫は入っていった。ここの店の子なのかな？

空を見ると太陽が沈み、赤から紫、そして群青になって夜となつて
いく。

しかし今日は塾が無いし少し家に帰るのが遅くなっても大丈夫。
リュックをぎゅっと掴んで私は店内へ入った。

出会い（後書き）

fragrant

fragrantの外装は、

元は赤色だったであろうが古ぼけてくすんだ茶色になってしまったレンガを使っている。

店名がかっこよく筆記体で書かれた看板には埃が被っている上に蜘蛛の巣まで出来ている。

ライトの1つ電気がついてない。

よく言えば趣があつてシックな店である。

こんな見た目だから

今まで前を通り過ぎるだけで店内へ入ったことなどもちろん無い。入ろうと思つたことも無い。

扉は常にかいているし窓が大きいため店内の様子は大体は知っていた。

しかし実際入つてみると想像していたものと大きく違つた。

外の様子とは全く違つてぼろくないし古くない。

かっこいい。お洒落。

語彙の少ない私はそんな言葉しか思いつかないけれど本当にかっこよくてお洒落なのだ。

4つの大きな鏡の前に黒くて座り心地のよさそうな椅子が置かれている。

派手な装飾や無駄なライトアップは無く、ほの暗い雰囲気。

よくある女性向け雑誌は置いてなく、

週刊文春や週刊新潮、囲碁の雑誌などまさにおじさんが読みそうな本が置いてある。

ところで、

猫の5歩くらい後ろを歩いて店内へ私は入ったのだが、
猫の姿が見当たらない。どこにいったんだろう？

お店の様子に気を取られて見失ってしまったようだ。

おじさん

「おい、そこのお嬢さん。」

「は、はい……！」

渋い声が私を呼んだらしい。

私は背筋をしゃきつと伸ばしてリュックを掴んでいる手に力を入れた。

「ささささつき野良猫がこのお店に入ってたようなんですが……」

360度ぐるりと回りながら少し声を張って言った。

どこに声の主がいるのかわからないのだ。

心臓の音がバクバクとうるさい。さつき上ずった声が出てしまったせいだ。絶対そうだ。

用は無いが猫が気になってこの店に入ったと店員さんに言ったら怒られてしまうやばい怖いなんて全く考えてない。なんで店内に入る前にそんな簡単な事考えられなかったんだろう私は馬鹿だと思つてすらない。このドキドキは声が上がって恥ずかしかっただけ、そうそれだけ。

「あ？野良猫？かおりのことか。あいつは野良じゃねえよ、うちの猫だ。」

そう言いながらたつたつたと一定のリズムを刻んで声の主は現

れた。

左奥に階段があったようだ。

渋い声から予想していたがやはりおじさんだった。

50代だと思う。白髪が多いが染める気は無いらしい。黒髪と混じって灰色になっている。

黒縁の厚いレンズの眼鏡の奥の目は少し釣り上がっていて威圧感がある。

Tシャツにジャケットを羽織り、ジーパンを穿いていて腰には美容師がよく持っている道具セットが入ったバックを身に着けていた。

「そうなんですかあ。へえー。」

笑みを顔に貼り付けて言った。

私ちゃんと笑えてるかな、さっきから口角がひくひくして辛い。

おじさんは舐めるように私を下から上まで見て

手を顎に添えた。眉間にしわが出来ている。

「…………。お嬢さん何しにきたんだ？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9801v/>

良い匂いがする猫

2011年10月9日10時58分発行